

小山工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0048			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義・演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『国語表現 改訂版』『国語表現基礎練習ノート 改訂版』（大修館書店）、『パスポート国語必携国語常識の演習と確認（四訂版）』（桐原書店）、『Sメソッドによる伝え合う力のトレーニング』（オリジナル教材）						
担当教員	柴田 美由紀,山崎 明						
到達目標							
1. 日本語の特徴を理解し、適切に表現することができる。 2. 読み手を意識して、機能的な文章を書くことができる。 3. 国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語の特質を明確に理解し、正確に適切な運用と表現ができる。			日本語の特質を理解し、適切な運用と表現ができる。		日本語の特質を明確に理解できず、正確に適切な運用と表現ができない。	
評価項目2	読み手を明確に意識して、優れて機能的な文章を書くことができる。			読み手を意識して、機能的な文章を書くことができる。		読み手を意識して、機能的な文章を書くことができない。	
評価項目3	国語の語彙や知識を十分に身につけ、実践的に運用することができる。			国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができる。		国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 ⑥							
教育方法等							
概要	国語表現に関わる基本的な知識を身に付け、特に話す・聞く・書く・読むという言語活動に関わる実践的能力を伸ばすことを目的とする。						
授業の進め方・方法	授業は講義・演習形式で行う。読む、書く、話す、聞くという活動を通して日本語の知識や表現力を養う授業である。積極的に参加し、日本語力に磨きをかけてほしい。						
注意点	本授業は、発表や課題提出物の配点が高いので、授業への出席や期限内の提出には十分に注意されたい。また、漢検や作文コンクールへの参加や入賞なども、その内容に応じて評価に加える。なお、シラバスは状況に応じて変更することがある。（2023.9.21修正）						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、日本語の表記（表記の変遷）		授業の内容を理解する。日本語の歴史を理解する。		
		2週	日本語の表記（係りと受け）、国語常識テスト①		日本語の表記を理解する。国語常識を理解する。		
		3週	日本語の表記（明快な表現）、国語常識テスト②		日本語の表記を理解する。国語常識を理解する。		
		4週	日本語の表記（話し言葉と書き言葉）		日本語の表記を理解する。		
		5週	面接の準備①（自己PR）、国語常識テスト③		面接の準備をする。国語常識を理解する。		
		6週	面接の準備②（自己PR）、国語常識テスト④		面接の準備をする。国語常識を理解する。		
		7週	日本語の表記（文字の使い分け）		日本語の表記を理解する。		
		8週	日本語の表記（仮名遣い）		日本語の表記を理解する。		
	2ndQ	9週	日本語の表記（適切な敬語）		日本語の表記を理解する。		
		10週	通信文を書く（便箋の書き方）、国語常識テスト⑤		通信文の書き方を理解する。国語常識を理解する。		
		11週	通信文を書く（案内状の書き方）、国語常識テスト⑥		通信文の書き方を理解する。国語常識を理解する。		
		12週	面接の準備③（志望動機）、国語常識テスト⑦		面接の準備をする。国語常識を理解する。		
		13週	面接の準備④（模擬面接）、国語常識テスト⑧		面接の準備をする。国語常識を理解する。		
		14週	随想を書く		すぐれた随想の表現を理解する。		
		15週	随想を書く		短い随想によって自己表現ができる。		
		16週	前期定期試験の返却と解説				
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス ディベート①：試合方法（4対4）の説明。論題決めと班分け。		後期の授業内容について理解する。 ディベートの試合方法について理解する。		
		2週	ディベート②：準備方法の説明。班別準備作業（リンクマップ作成、データ収集）。		論拠の立て方、データの集め方について理解し、実践する。		
		3週	ディベート③：立論の説明。班別準備作業（立論作成、データ収集）。		説得力のある立論の書き方について理解し、実践する。		
		4週	ディベート④：反論の説明。班別準備作業（反論対策、データ収集）		効果的な反論の仕方について理解し、実践する。		
		5週	ディベート⑤：試合リハーサル、第1試合		論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。		
		6週	ディベート⑥：第2試合、第3試合		論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。		
		7週	ディベート⑦：第4試合、第5試合		論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。		
		8週	ディベート⑧：総括		ディベートの反省点を今後活かす。		

4thQ	9週	小論文①：反論を想定して書く	ディベートの手法を応用し、小論文を効果的に書く。
	10週	ショートプレゼンテーション発表① 国語常識テスト①	与えられた時間内で話す方法について理解する。 国語常識を身につける。
	11週	ショートプレゼンテーション発表② 国語常識テスト②	聞き手のマナーについて理解する。 国語常識を身につける。
	12週	ショートプレゼンテーション発表③ 国語常識テスト③	効果的なスライドの作成方法について理解する。 国語常識を身につける。
	13週	ショートプレゼンテーション発表④ 国語常識テスト④	聞き手の印象に残る話し方について理解する。 国語常識を身につける。
	14週	小論文②：絵や写真を見て書く	伝えたいことを順序良く正確に文章化する。
	15週	「国語Ⅲ」の総括	一年間に学んだことを振り返り、身についたことや反省点を今後活かす姿勢を持つ。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディールanguageなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
			複数の情報を整理・構造化できる。	2	
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	

				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
評価割合						
		試験	発表・課題提出	小テスト	合計	
総合評価割合		20	60	20	100	
基礎的能力		20	60	20	100	
専門的能力		0	0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	0	